

---

# 壊されたモノ。

神崎慧

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

壊されたモノ。

### 【Nコード】

N9087H

### 【作者名】

神崎慧

### 【あらすじ】

繰り返すような日常というのは、実はすごく脆いものなのだろう。私がそれを知ったのは、他の例に漏れず、それを失った時だった。

続く保証は無い。

続けられる確証も無い。

それでも、思う。

現在を続けていたいと。

だからこそ願う。

どうかこのままで、と。

繰り返すような日常というのは、実はすごく脆いものなのだとい  
う。

私があるを知ったのは、他の例に漏れず、それを失った時だった。  
いつも通りのはずの一日。

それは唐突に訪れ、簡単に私の日常を破壊した。

きつと、何の感慨も無く、どんな打算も考えず。

ただ、破壊したのだらう。

アイツはそうして、私から日常を奪い去った。

私の身柄と同じように。

不幸中の幸い、なんて言葉を何度かけられただらう。

その台詞をどれだけ言われたか分からない。

みんなが口を揃えたように言っていた。

それはまるで、口裏を合わせたように。

生きていたことが奇跡だ、と。

確かに、落ち着いた今になって考えてみると、アイツは私を殺そ  
うとはしなかった。

まるで生き証人を作るかのように、乱暴ながらも大事に扱っていたように思う。

少なくとも、他の人達よりは……。

目の前でどれだけの人がいたぶられただろう。

そんなとき、アイツはいつも笑っていた。

楽しそうに。

愉しそうに。

それが自分の趣味だと語るみたいに。

そのくせ、私に手を出していたのは最初の頃だけだった。

その後はただただ見ていることを強要した。

悲鳴をあげることも声をかけることも許さず、目を背けることさえ認めなかった。

目の前で人が壊されていく恐怖。

そう。アイツは最初から殺すことはなかった。

いたぶって弄んで、じつくりと壊すのだ。

まるでそれが楽しいとでも言うように。

人を壊す、その過程が。

希望を与えては叩き潰し。

絶望を感じさせては小さな希望を抱かせて。

それを繰り返しせば、心が悲鳴をあげ、擦り切れていく。

そうして人を壊し、何も感じ無くなる頃を見計らったように、殺す。

微塵の躊躇いも無く、小さな躊躇も無く。

そうすると、窓の締め切られた部屋に充満するのだ。

例えようのない、あの独特な鼻を突く臭いが……。

籠った空気の中に撒き散らすように、真っ赤な……。

それから、片付けをした後、また新しい子が連れて来られて、壊されていく。

その繰り返しだった。

何度も何度も繰り返しした。

そのうち、それが日常になるんじゃないかと、そう思うほどに…

どれくらい続いたかは知らないし、ただか時間を数えるためにアラリー一つ一つ思い出すなんてことはやらないけど、気がつくと思えられていた。

無事に、救出されたら良かった。

しばらくはテレビ局とかが騒いでたけど、それもすぐに無くなって、周りもそれほど騒がなくなった頃、親の仕事の都合ということ転校することになり、私は いや、私たち家族は、その過去を闇へと沈めた。

転校した学校で手に入れた日常は、毎日が楽しくて仕方が無いよ  
うな、そんな場所です。

だから私は毎日のように思いながら 願いながら、過ごして  
いた。

こんな楽しい日常が、いつまでも続きますように、と。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9087h/>

---

壊されたモノ。

2011年1月6日15時00分発行